

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

接触皮膚炎診療ガイドライン 2020

日本皮膚科学会接触皮膚炎診療ガイドライン改定委員会

https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/130_523contact_dermatitis2020.pdf

Strength of Evidence

- I: システマティック・レビュー/メタアナリシス
- II: 1 つ以上のランダム化比較試験による
- III: 非ランダム化比較試験による
- IV: 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による)
- V: 記述研究 (症例報告や症例集積研究による)
- VI: 専門委員会や専門家個人の意見

Strength of Recommendation

- A: 行うよう強く勧められる (少なくとも 1 つの有効性を示すレベル I もしくは良質のレベル II のエビデンスがあること)
- B: 行うよう勧められる (少なくとも 1 つ以上の有効性を示す質の劣るレベル II か良質のレベル III あるいは非常に良質の IV のエビデンスがある)
- C1: 行うことを考慮してもよいが、十分な根拠がない (質の劣る III~IV, 良質な複数の V, あるいは委員会が認める VI)
- C2: 根拠がないので勧められない (有効のエビデンスがない、あるいは無効であるエビデンスがある)
- D: 行わないよう勧められる (無効あるいは有害であることを示す良質のエビデンスがある)

■1 紫雲膏

疾患:

接触皮膚炎 (副作用)

引用など:

- 1) 成田佳香, 大磯直毅, 東森倫子, ほか. 【接触皮膚炎 2009】臨床例 紫雲膏による接触皮膚炎. *皮膚病診療* 2009; 31: 1301-1302.
- 2) Tsunoda T, Okada S. 紫雲膏による接触皮膚炎の 1 症例 (A Case of Contact Dermatitis due to Shiun-ko), *Journal of Environmental Dermatology* 2014; 11:16-20.
- 3) 久保容二郎. 【嗜好品・健康食品による皮膚病変 臨床例】アトピー性皮膚炎の自家療法 (紫雲膏, プロポリス等) で生じた接触皮膚炎. *皮膚病診療* 2004; 26: 983-986.
- 4) 夏秋優, 武田裕美子, 矢野倫子. 紫雲膏, 太乙膏による接触皮膚炎の 1 例. *日本東洋医学雑誌* 2000; 51: 255-259.
- 5) 加藤佳美, 早川律子, 請井智香子. 【接触皮膚炎-1998】臨床例 漢方製剤による接触皮膚炎. *皮膚病診療* 1998; 20: 212-214.

副作用に関する記載ないしその要約:

(7) 医薬品・医療材料による接触皮膚炎 (湿疹型薬疹含む) の Q3. それぞれの種類による病型・原因物質・部位・特徴は? において、「8) その他の外用薬; 巻線治療外用薬・漢方含有外用薬など」の項に、下記の記載がある。

『また、漢方含有外用薬による接触皮膚炎の報告もある。紫雲膏は報告が多く、主成分であるシコン、トウキ、基剤に含まれるミツロウやゴマ油による、太乙膏による報告もあり、やはりミツロウが原因と特定されている。』

■2 甘草、十全大補湯

疾患:

湿疹型薬疹 (副作用)

引用など:

山崎雙次. 湿疹型薬疹.【薬疹のすべて】エキスパートに学ぶ診療の実際. 南江堂 2008; 193-196.

副作用に関する記載ないしその要約:

(7) 医薬品・医療材料による接触皮膚炎 (湿疹型薬疹含む) の Q3. それぞれの種類による病型・原因物質・部位・特徴は? において、「10) 湿疹型薬疹の原因薬として報告されている主な医薬品」の項に、下記の記載がある。

『付表 6 は、湿疹型薬疹の原因薬として報告されている主な医薬品を表示したものである。

(中略) 甘草などの漢方薬 (中略) など、多種薬剤が原因となる。』

備考:

『湿疹型薬疹の原因薬として報告されている医薬品』の表中に、漢方薬として甘草、十全大補湯、柿の葉+スギナの記載がある。